

鳴く鹿を詠む一首 并せて短歌

一七六一番

三諸の 神奈備山に 立ち向かふ 三垣の山に
秋萩の 妻をまかむと 朝月夜 明けまく惜しみ
あしひきの 山彦とよめ 呼び立て鳴くも

反歌

一七六二番

明日の夕 逢はざらめやも あしひきの 山彦と
よめ 呼び立て鳴くも

沙弥女王の歌一首

一七六三番

倉橋の 山を高めか 夜隠りに 出で来る月の
片待ち難き